

水稲用軽量育苗培土の特性 ～かん水量は控えめに～

【1 ピートモス等を混合した軽量培土の特性】

- (1) 軽量培土を利用することにより、苗箱重量は粒状培土より1～3割軽くなります(図1)。
- (2) 生育量は平置き育苗・プール育苗とも粒状培土と同等です(図2)。
- (3) 出芽時に覆土の持ち上がりや根上がりが発生しやすく、発生した場合はかん水等で覆土を落とします(図3)。
- (4) 平置き育苗では、かん水量が多いと苗の葉色が淡くなりやすいですが、軽量培土は保水性に優れるので、かん水量を控えめにすることで葉色を維持できます(図4)。

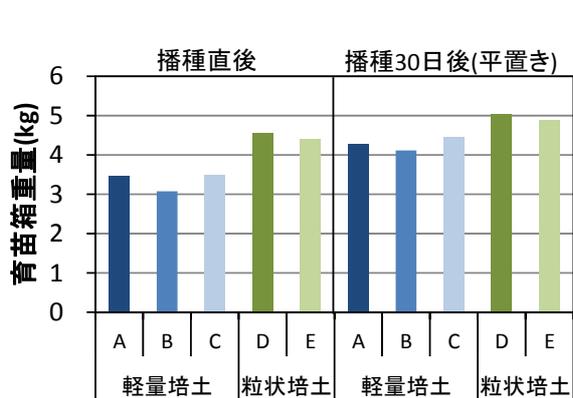


図1 苗箱の重量

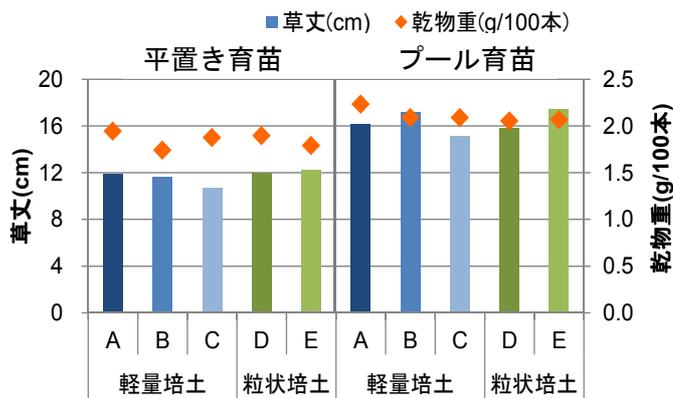


図2 播種30日後の苗の草丈と乾物重



図3 出芽時の覆土の持ち上がり

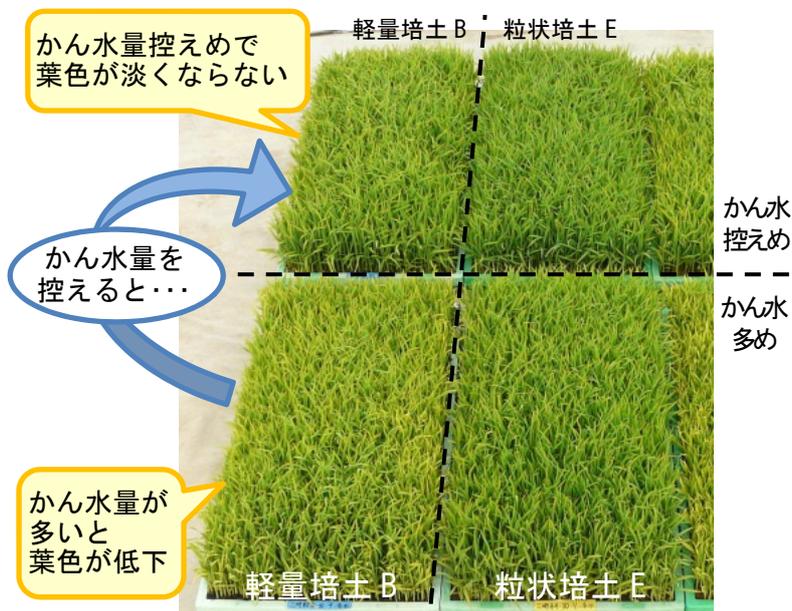


図4 平置き育苗播種30日後の葉色の様子
水管理で控えめのかん水は日毎のかん水量を3～5割程度減らしてかん水した。

【2 留意事項】

- (1) 育苗期間が長引き、葉色が低下する場合は追肥をしてください。
- (2) 軽量培土は粒状培土と比べて1箱あたりの価格が2～3割程度割高の見込みです。